くらし 家庭

# 昆虫の気持ちになって飼育

## 昆虫科学研究センターISRC代表　渡部宏さん

Q&A

わたなべ・ひろし　関西を中心に昆虫教室を開き、子どもたちが自然に親しむ機会を提供している。気象予報士の資格も持ち、帝塚山大非常勤講師も務める。

もうすぐ夏休み。自由研究のテーマに昆虫観察を選ぶ子も多いでしょう。飼育する上で気をつけたいことを、「昆虫科学研究センターISRC」（兵庫県西宮市）代表の渡部宏さん(36)＝写真＝に聞きました。

◇

プラスチック製の飼育ケースに入れて観察すると思いますが、快適に過ごしてもらうためには、昆虫が普段生息している環境をよく観察し、できるだけ再現することが大切です。カブトムシやクワガタは、森の中をイメージして土をでこぼこに敷き、朽ち木も置きましょう。草地で暮らすバッタやカマキリは、3㌢ほど土を入れ、根が付いたままの草を植えます。

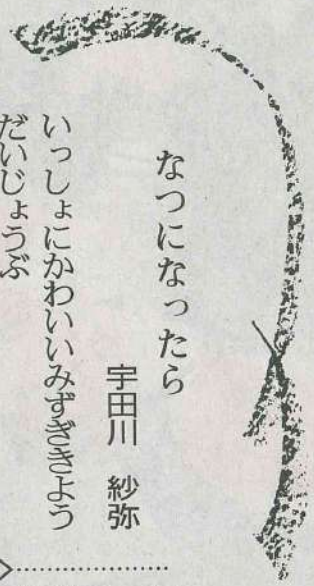
飼育ケースは表面がツルツルしているので、昆虫が登ろうとして滑り落ちて脚や羽を傷めることがあります。朽ち木や草は足場になり、これを防ぐことができます。カマキリは高い場所で脱皮する習性があるため、天井に網をつけると良いでしょう。

子どもの興味は、なかなか長続きしません。面倒を見なくなってきたら、大人がちょっとした昆虫の変化を見つけ、関心を向けさせましょう。例えば、「土に潜っていたカブトムシの幼虫が出てきた」。これは、土がフンだらけで汚れているなどのサインです。「昆虫の気持ちになって考えてみよう」などと声を掛け、本やインターネットなども活用して一緒に解決法を探ってみてください。

虫が苦手な保護者の方もいると思います。でも、「汚いから外で飼って」「気持ち悪い」と子どもに言うのは避けましょう。生き物と触れ合うことで、生態系や環境問題などに興味の対象が広がっていくこともあります。好奇心の芽をぐんぐん伸ばしてあげてください。

子育てQ＆Aでは、子育ての悩みや疑問を募集しています。郵便は、〒530・8551読売新聞大阪本社生活教育部「子育てQ＆A」係へ。メール（seikatsu@yomiuri.com）でも受け付けます。

### こどもの詩



なつになったら
宇田川　紗弥

いっしょにかわいいみずぎきようだいじょうぶ
ママもきられるよ
ぎりぎり

（神奈川県厚木市・はやし幼稚園年長）

◇

「ぎりぎり」にぎくっとしました。破壊力のある言葉ですね。（平田俊子）

＊「My Day,My Way」は29日に掲載します。